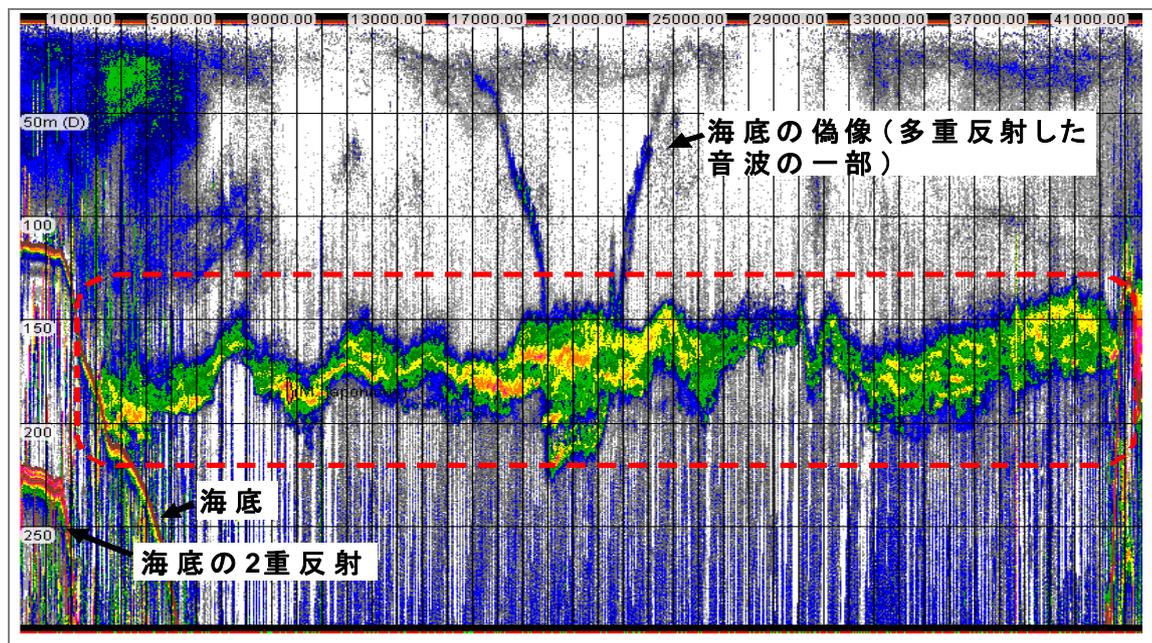


反応構成生物： キュウリエソ (*Maurolicus japonicus*)

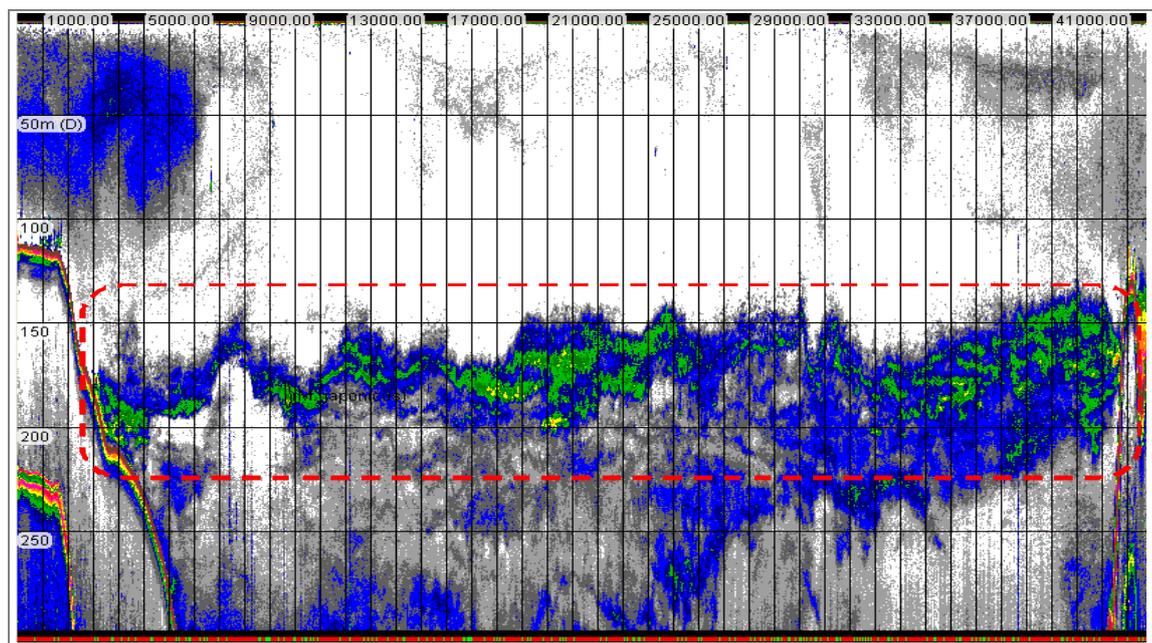
収録日時：2009年4月18日 (昼間 15:30~17:30 頃)

収録海域：日本海, 富山湾

収録機種・周波数：EK60・38 kHz / 120 kHz



Echogram-1 38 kHz



Echogram-2 120 kHz

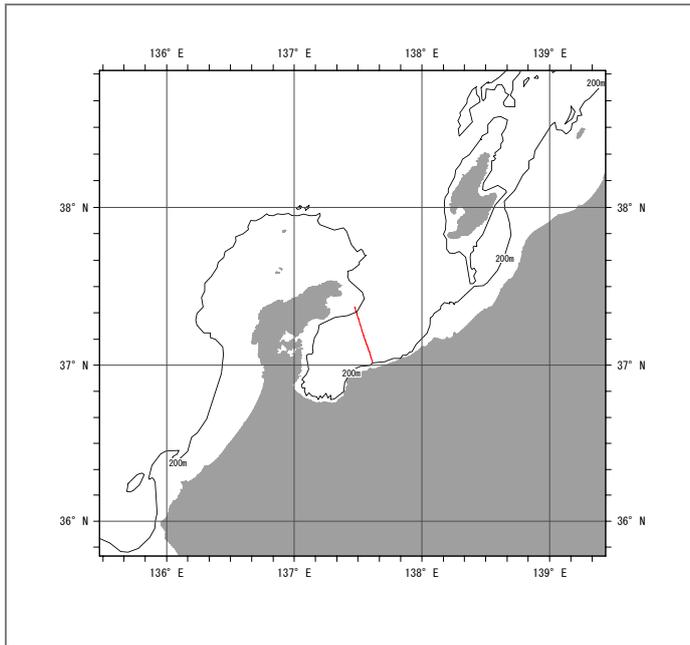
表示スケール： 縦 300 m / 横 45000 m

グリッド間隔： 縦 50 m / 横 1000 m

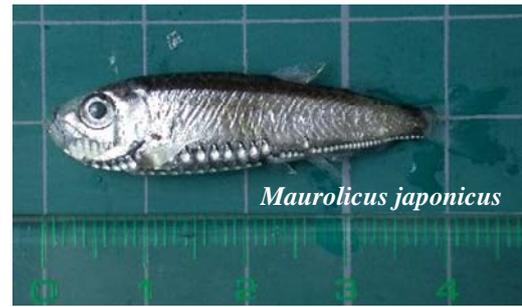
表示色・表示 S_v 範囲： EK500color ・ -80 ~ -30 dB

データ提供：日本海区水産研究所 (藤野忠敬), 俊鷹丸

収録海域詳細↓



反応構成生物写真・イラスト↓



写真提供：藤野忠敬（日本海区水産研究所）

魚種確認の有無・対象生物判別の根拠

日中深度約 150~200 m に層状に出現し、なおかつ、120 kHz に比べ 38 kHz に強く映る反応の特徴がキュウリエソの反応の特徴と合致すること（詳しくは P.197~199 を参照）。

サンプリング詳細情報・備考

富山湾を横断する、本ライン上（収録海域詳細を参照）で観察されたキュウリエソ反応の反射強度から、標準体長 30 mm の個体が反応を構成していると仮定すると、1 m²あたり 73.8 個体、重量では 28.9 g/m² の密度があると考えられる。本ラインより西側の富山湾のキュウリエソが生息する水深 140 m 以上の海域の面積は 2011 km² であり、仮にこのライン上の密度が富山湾内の密度を代表していると考えれば、2009 年 4 月の富山湾内には少なくとも 5.8 万トンのキュウリエソが現存していたことになる。